

a 学校教育目標	ふるさとを愛し、鍛えよ『知・徳・体』	b 経営理念 (ミッション・ビジョン)	【ミッション】(自校の使命) ・社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) ・主体的な学びが育まれる学校 ・夢や志があり、誰もが通ってみたい学校 ・地域の活力の源として、信頼される学校
----------	--------------------	---------------------	---

評価計画					自己評価					改善方針	I 学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	1月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方針	評価			コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の育成	主体的・対話的で深い学びの創造	自ら学ぶ中で の学力向上 共に学び合う 集団づくり	○学び合いを通じた授業づくり、教師のファシリテート力の向上 ○指導者用デジタル教科書の積極的な活用 ○ICTの効果的な活用による授業改善 ○学力分析に基づく学力向上の取組 ○R80による振り返りの実施 ○小中連携による授業研究	単元テスト(国語・算数・理科)の通過率	80%	83%	104%	A	単元テストの通過率は、全校の平均で80%を超えることができた。しかし、学年が上になるほど通過率が低い。また、児童個々の通過率に焦点を当てると、単元テストで80%を超えている児童の割合は国60%、算数62.5%、理科76.5%であった。児童間の学力差が大きいという課題がある。	授業改善に向けた研究に引き続き取り組む。また、ドリルタイムを計画的に行い、前学年を含めた苦手な単元に継続して取り組み、学力の定着を目指す。 担任以外の教諭も連携して複数体制で指導にあたることで、様々な学力の児童への組織としての対応ができるようにしていく。	○			授業改善のための校内研修をさらに進めていってほしい。 R80による振り返りで、まとめて伝える力が育まれると思う。 ドリルタイムなどで、学力をつけるために全職員で対応しているのが良い。
		家庭学習の充実	○家庭学習の習慣化 ○学習チャレンジデーの充実 ○読み・書き・計算の徹底につながる学習活動の推進	児童アンケート「学習チャレンジデーで自己で定めた目標ができた」の肯定的評価の割合	80%	91%	113%	A	おおむね家庭学習を定着することができており、学習チャレンジデーには児童が自己選択する場を設定できている。しかし、家庭学習の習慣化が未定着の児童は固定化されている。 また、改善の取組が難しい場合がある。個や学力の面からも、学習の内容や家庭学習の量など、児童に合わせて検討していくことが必要である。	引き続き、学習チャレンジデーに取り組む。頑張っている児童の取組を紹介・交流することで手本を示し、内容や取組を深める意識を育てる。また、家庭学習が困難な児童には、家庭と連携し個別の対応をとるなど、取り組める環境づくりを行う。合わせて教員間で連携し家庭学習の量なども適時調整していく。	○			学習チャレンジデーのさらなる充実に期待する。 他の児童の学習状況を知り刺激を受けることが、自ら工夫する力につながる。
豊かな心の育成	自己肯定感が 高い心豊かな 子供の育成	基本的生活習慣の確立 不登校の未然防止 地域貢献意識の向上	○生活上の基本事項の指導を徹底(時間・挨拶・掃除) ○児童会による自治活動の充実 ○生徒指導の三機能を活かした指導支援、集団づくり ○相談体制の充実、小中連携の充実 ○体験活動の充実(自然・文化・地域人材)	児童アンケート ①「自分から挨拶をした」 ②「よりよい学校、学級にしようがんばっている」 の肯定的評価の割合	ともに 90%	①86% ②94%	①95% ②104%	B	「自分から進んで挨拶をした」については、86%の児童が肯定的にとらえている。「よりよい学校、学級にしようがんばっている」については、94%の児童が肯定的にとらえている。 全校児童の1割強の児童が、自分からあいさつができていないという評価をしている。	掃除や委員会などの活動に職員も参加し、子供たちの行動を肯定的に評価したり、児童会活動の「久井小の宝放送」でよい行動をしている児童を称賛したりし、行動の価値づけを行う。そのことを通して学校や学級のために行動することのよさを体験させるなど、自分たちの行動の有効性を実感させることを継続して行っていく。	○			挨拶は人間関係をよくするための基本であるので園・小で連携し、取り組んでいくとよい。 久井小の宝の取組をさらに充実させてほしい。
健やかな身体の育成	体力向上と健康教育の推進	新体力テストの分析による重点課題への取組 健康教育・食育の推進	○新体力づくりテストの分析に基づく体育科授業の工夫改善(全国平均以上を目指す) ○外遊びの奨励 ○児童会企画の縦割り遊びの充実 ○「金のルール」「食育」に基づく生活指導(早寝・早起き・朝ご飯・食のバランス)	児童アンケート「運動が好き」の肯定的評価の割合	90%	83%	92%	B	低学年は89.5%で概ね達成できているが、高学年は76.9%と達成値が低い。これは、夏場が異常に暑くて外に出なかったことと、外遊びの種類や遊び方(楽しむこと)を知らないことが要因と思われる。	児童会企画の縦割り班遊びの「仲間もーり」(仲間もりもり大作戦→指定された学年ごとに遊ぶ)の活用や、それ以外に縦割り班で高学年をリーダーと一緒に遊んだり、学級レクを工夫したりして、遊びの種類を増やす取組を行う。 引き続き、体育科授業の工夫改善を行う。	○			暑さによる子供の体力低下を感じている。縦割り遊びの取組がさらに充実すると良い。
働き方改革の推進	ワークライフバランスの確立	開かれた学校づくり 教職員の資質向上 不祥事根絶 長時間勤務の縮減	○積極的な情報発信 ○上限目安時間を超えない時間管理(45時間/月) ○週1回(水曜日)の定時退校日の徹底 ○ボトムアップによる業務改善 ○働く者の意識改革・醸成(ワークライフバランス)	保護者アンケート「本校の教育活動に満足している」の肯定的評価の割合	80%	94.3%	118%	A	保護者アンケートの結果を見ると、肯定的な評価が94.3%以上となっており、本校の教育活動におおむね満足しているという回答をいただいている。	後期も、積極的な情報発信等を進め、児童が安心・安全に過ごしていくための教育活動、信頼される学校づくりに向けての取組を推進していく。	○			学校だよりで写真付きの紹介をしていることで取組の様子がよくわかる。 地域への情報発信をさらに充実させてほしい。
				時間外の在校時間 月45時間以内の職員の割合	100%	92.8%	92.8%	B	年度当初は時間外勤務が多くなる職員もいたが、職員の状況を把握し日常的な声掛けを行うことにより減少した。その結果、前期の時間外勤務平均45時間未満の職員が92.8%となった	見直しをもって、学校教育活動を進めていくための声掛けを今まで以上に意識していく。そのことを通して業務の効率化を図り、自校における働き方改革を進めていく。	○			働き方改革と教育活動の充実には工夫が必要である。

【j : 自己評価 評価】

A : 100≦(目標達成) C : 60≦(もう少し) < 80  
B : 80≦(ほぼ達成) < 100 D : (できていない) < 60

【I : 学校関係者評価 評価】

イ: 自己評価は適正である  
ロ: 自己評価は適正でない ハ: わからない